
魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

のりにゃんこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

【Zコード】

Z7900Y

【作者名】

のりにゃん

【あらすじ】

ある日神様のミスで死んでしまった事もなく偶然転生させられる事になる少年少女たち。彼等は少しでも良い未来を創りうと奮闘する。

俺は真っ暗闇の中でも目が覚めた。

上も下も、前も後ろも、右も左も分からぬ、暖かく、心地の良い

“闇”

そういうえば死んだんだっけ。

そんな事を考えていると、不意に声をかけられた。

「おめでとー！君はこの度、見事転生者に選ばれましたー！」

は？なに？このコードギアスのロイドさんっぽい声でロイドさんっぽい話し方するメガネは。

「なんで俺？つーか死んで漸く心地の良い場所に来れたのに。」

全くだ。末期の癌とか言われて一年苦しんだんだぜ？っていうか、余命半年とか言われたつけ。今思つとすげえな。しかし享年十九歳か。我ながらびっくりだ。

まあ今更どうでもいいが。

「ふむ。君の疑問も尤もだ。簡単に言うと、十九歳までに死んじやつたで“魔法少女リリカルなのはシリーズ”について一定以上の知識か執念を持つた人間を選び出し、その中から気に入らない奴を候補から外し、最終的に残った人間の内の一人が君だ。」

真面目な口調になつた。

「では特典を三つ与えるつてことだから。ああ、ちなみに拒否権は無いから。」

えー無いの～。まあしあうがないか。

「じゃあ、“ジェイル・スカリエツティ”のファイツシユ数乗の頭脳をくれ。」

「はい一つ。」

「いいの？」

「まあそんくらいなら。僕らそれ+5位はあるから。まあ中には馬鹿もいるけど。」

そうなのか。意外にすごいなメガネ。

「あと二つだよ~」

急かすな。まじで。

「じゃあ、レアスキルメイカーがいい。」

「ああ、レアスキルが作れる奴だね。了解。」

あと二つか。そうだな。

「何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍。できるか?」

「もちろんさ。」

これで良し。あ、そういえば。

「俺らが入る体つてのは産まれてくる赤ん坊なのか?といつか新しく作られるのか?」

これが気になつてたんだよな。

「特典に酷似した能力を一つ以上持つた人間にれるよ。まあそれで実現できない奴は新しく作るが。あと足りない特典は『えるから成る程。ん?』

「実現できない奴つてのは?」

メガネは答えた。

「二次創作にいるだろ?銀髪オッドアイとかさ。あと原作キャラの親族とか。流石にそういうものは落ちて(存在して)無いから。」

ああ~なる。

「神様つて大変なんだね。」

一応労つておく

「ありがとう。ねぎらいの言葉をかけてくれたのは君だけだよ。」

ああ~かわいそうに。

「よし、じゃあ超ハイスペックな体にいれてあげるよ。」

はい?

「じゃあいくよ!キエヒヒヒヒヒヒヒ!」

「掛け声かっこ悪い!」

馬鹿な事言つてたら下に落ちていく感覚がして、

俺は意識を失つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7900y/>

魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

2011年11月23日16時52分発行